

## 9 地域ごとの特徴および品種の選定

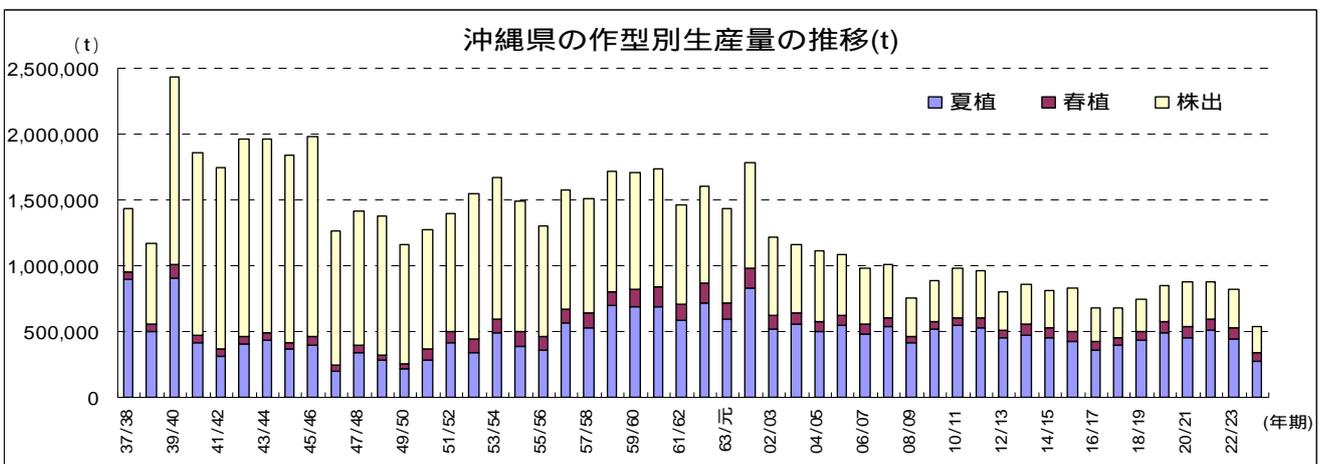
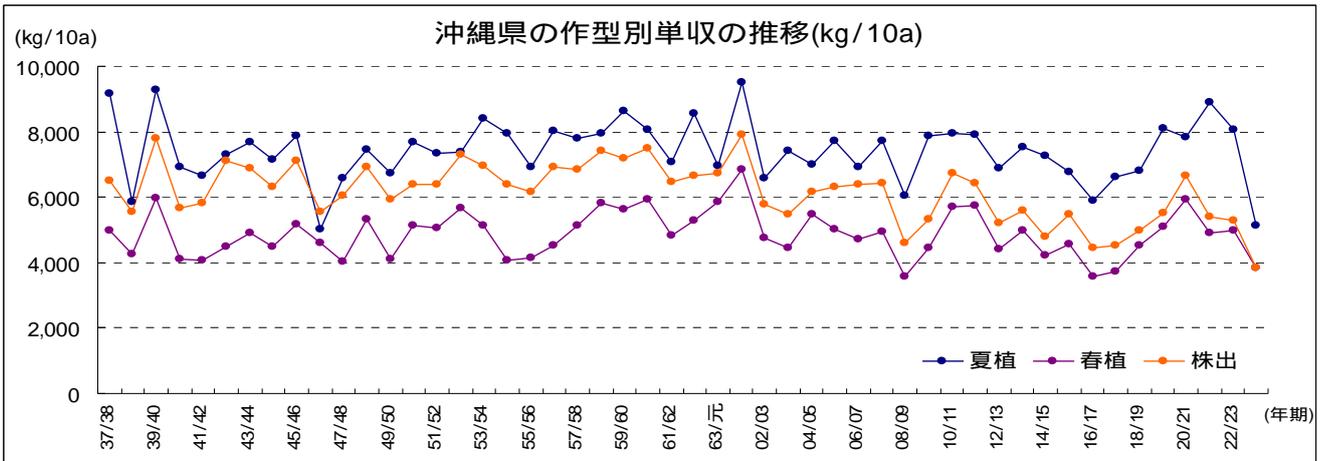
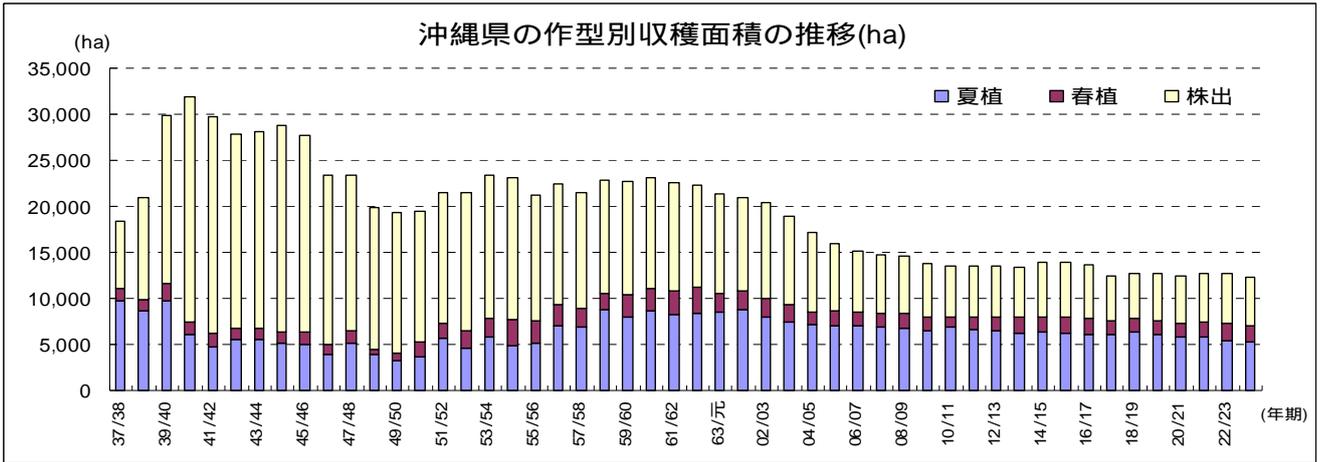
### (1) 県全体

さとうきびは、本県の基幹作物として地域経済の維持、発展に重要な役割を果たしている。

しかし、生産農家の高齢化や、台風、干ばつ等の気象災害等により生産量は低迷している。

このような状況において、さとうきびの生産振興を図るため、生産基盤の整備をはじめ、機械化の促進、土づくり、病害虫防除対策、地域に適した品種の開発・普及等の諸施策を総合的に推進することにより、生産性及び品質の向上を図る必要がある。

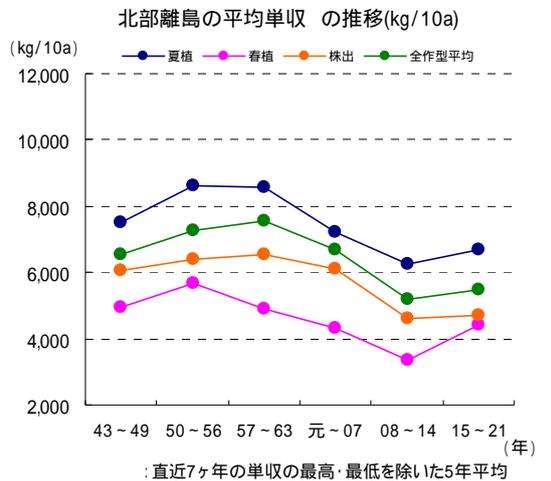
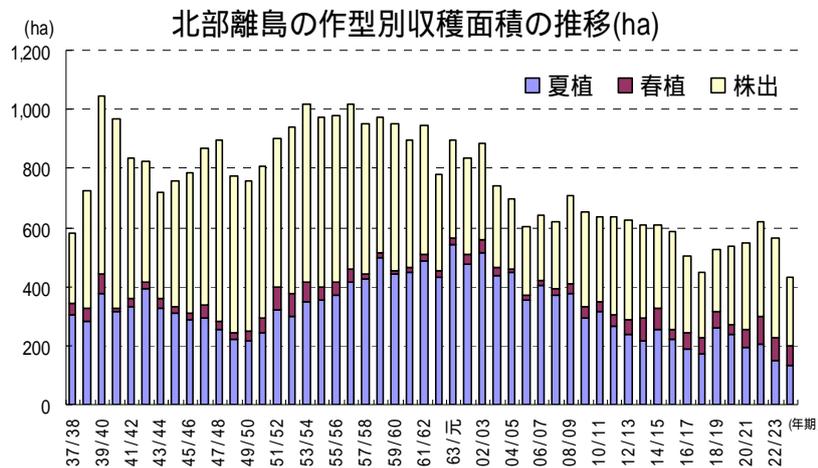
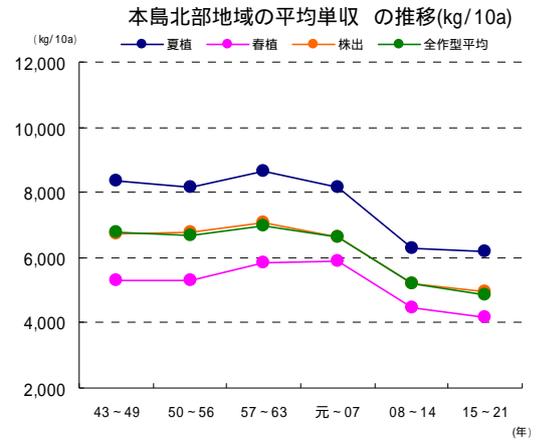
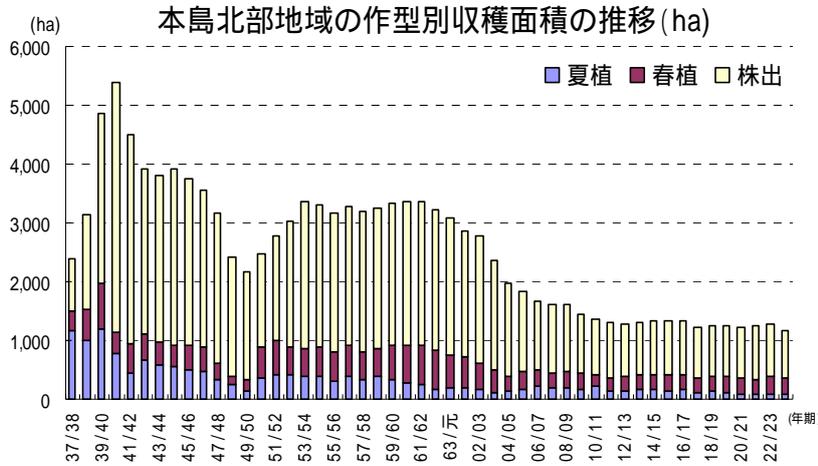
沖縄県全体のさとうきびの収穫面積、単収、生産量の推移は次のとおりである。



## (2) 北部地域

北部地域においては、生産農家の高齢化等でさとうきびの栽培面積や、単位面積当たり収量が低下傾向にある。

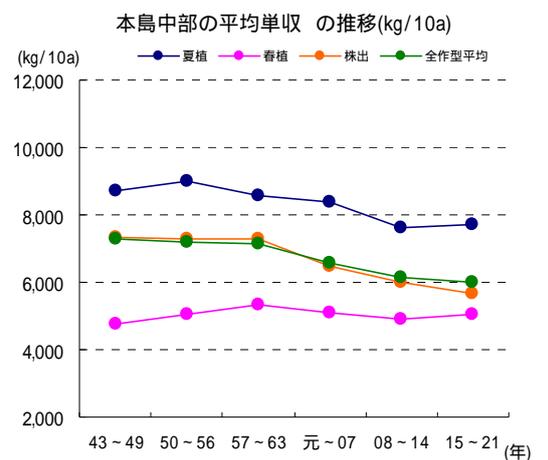
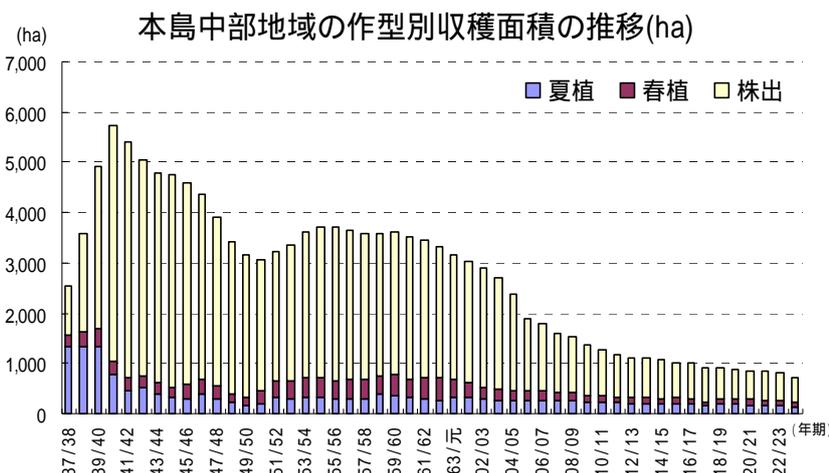
栽培型については、本島北部地域で春植え・株出し栽培が9割以上を占め、北部離島地域では夏植栽培が約3割となっている。



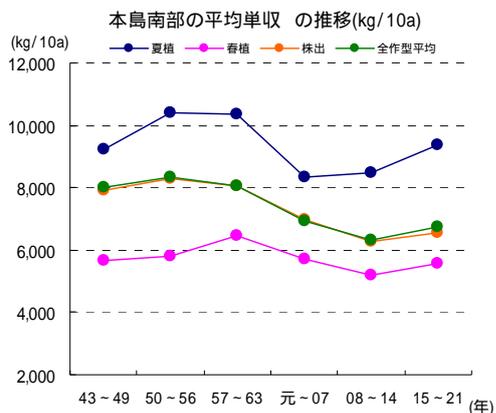
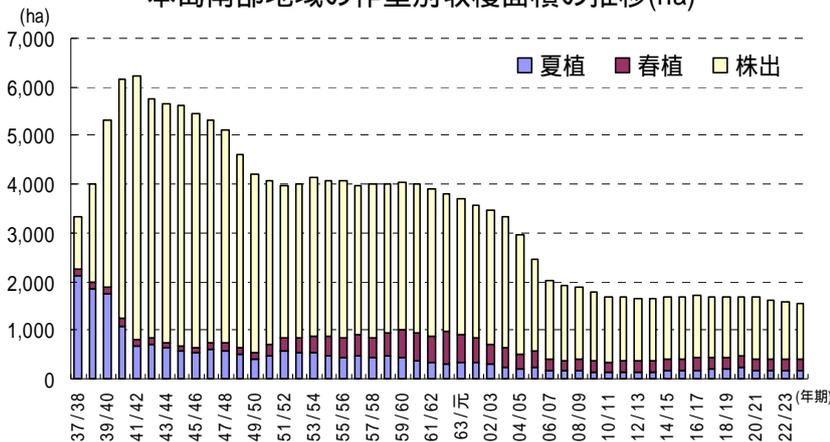
## (3) 中南部地域

中南部地域においては、狭く、傾斜したほ場等が多く栽培面積も小さい。また、都市化の進展により、雇用の機会が多いため、他産業への労働力の流出による遊休地の増加や園芸作物への転換等が進み、近年さとうきび栽培面積が減少している。一方、大東地域などは大型機械化が進んでいる。

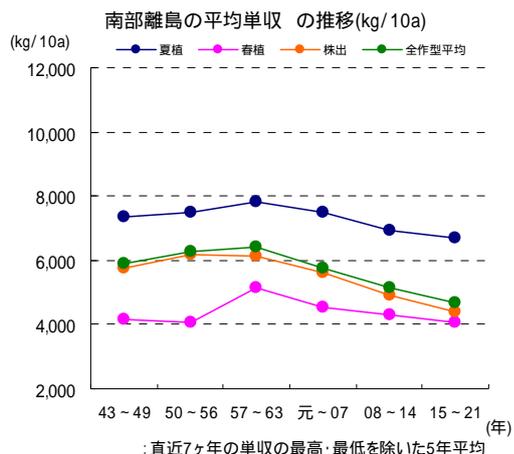
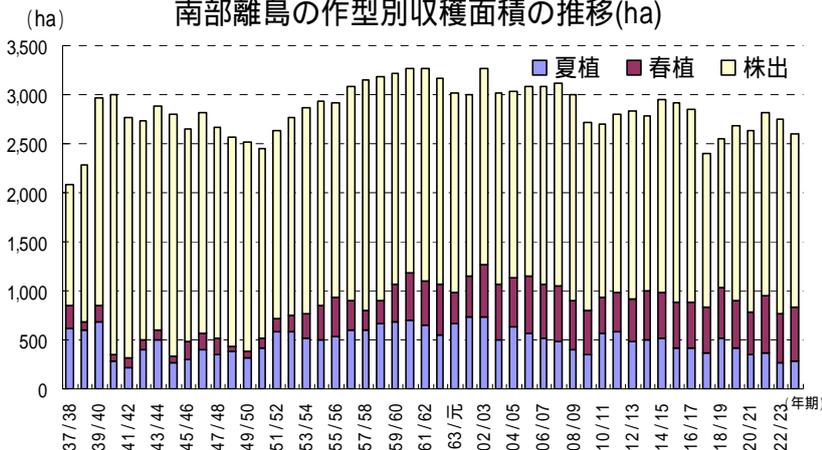
栽培型については、本島中南部地域及び南部離島地域とも、春植・株出栽培が主である。



本島南部地域の作型別収穫面積の推移(ha)



南部離島の作型別収穫面積の推移(ha)

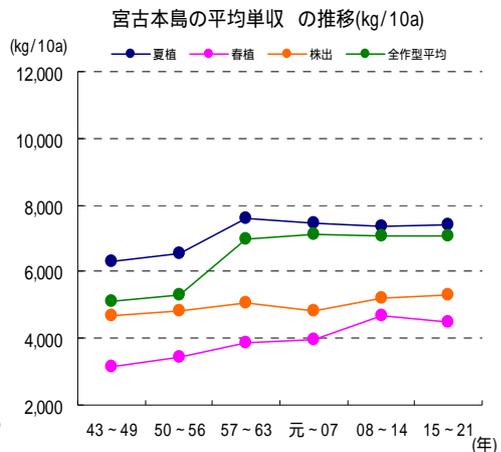
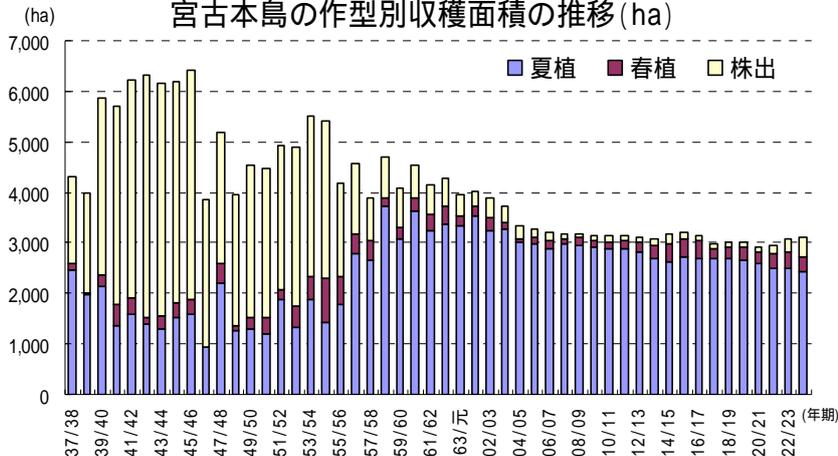


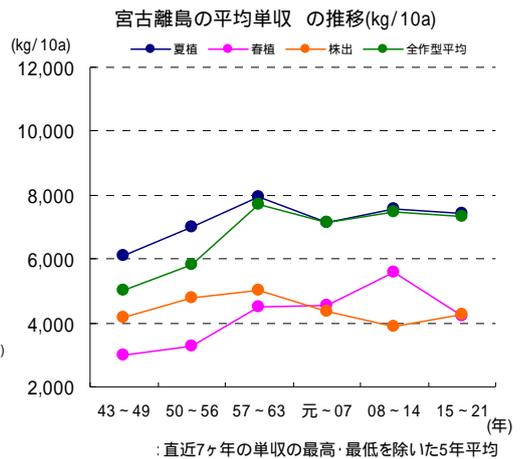
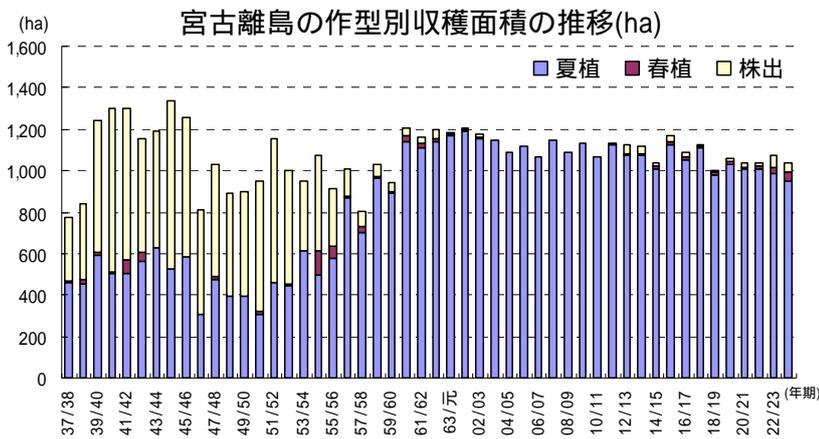
#### (4) 宮古地域

宮古地域は、河川がほとんどなく、大部分が耕土の浅い島尻マーヅ土壤であることから、干ばつの被害を受けやすい地域である。

栽培型については、土壤害虫のまん延により株出し栽培が困難となり、夏植中心の栽培地域であった。しかし、近年、従来の防除法に比べ環境に優しく、かつ有効な防除法（LED トラップ、ベイト剤等）が開発され、今後は春植・株出し栽培が促進されると期待される。

宮古本島の作型別収穫面積の推移 (ha)

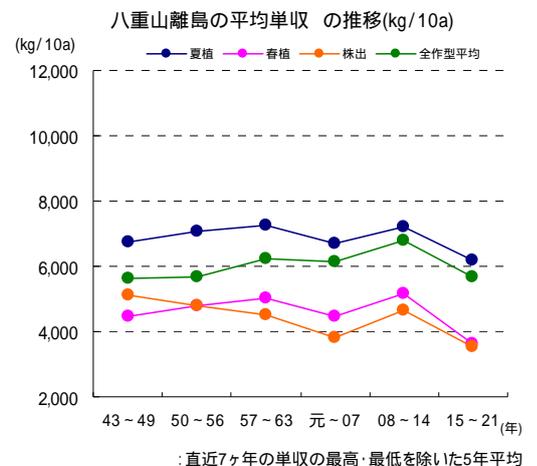
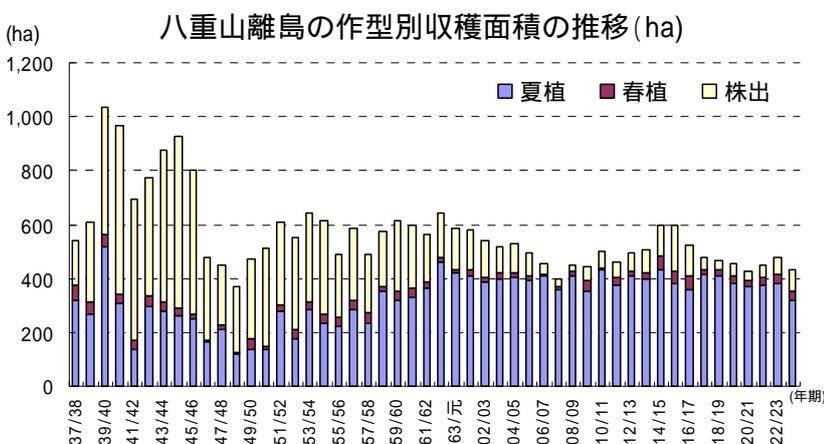
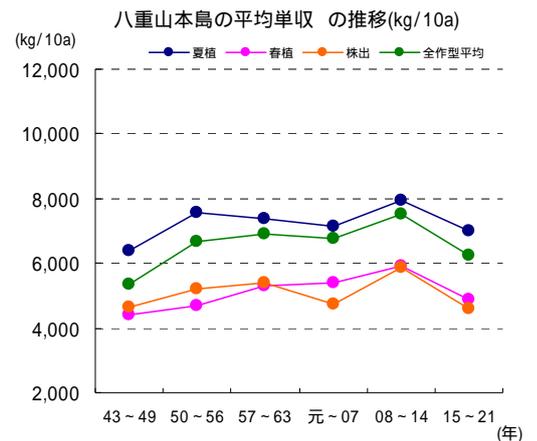
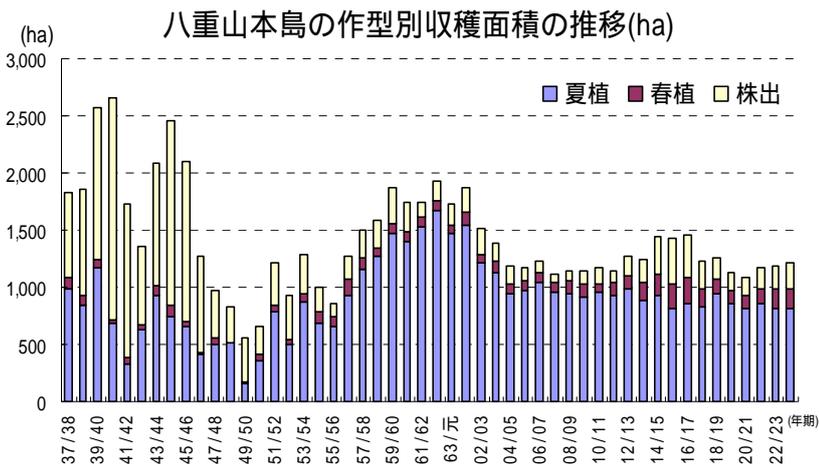




## (5) 八重山地域

八重山地域は、国営宮良川及び名蔵川地区かんがい排水事業等により農業用水源が確保されており、肉用牛等を中心に多様な農業が展開されているが、さとうきびについては、生産農家の高齢化や台風等の自然災害により、不安定な生産状況にある。

栽培型については、八重山本島地域及び離島地域ともに、夏植栽培が主である。しかし、近年の有効な防除法の開発等（ベイト剤等）により、今後は株出栽培が促進されると期待される。



## (6) 品種特性からみた選定

さとうきびを栽培するとき、植付け時期、株出し栽培の有無、他作物との輪作、収穫手段、収穫時期、地域特性等を考慮して品種を選定する必要がある。

### ア 肥培管理の時期からみた品種

通常の肥培管理品種							早期肥培管理品種						
F161	F177	NiTn10	Ni15	Ni17	NiN24	Ni26	NiF8	Ni9	Ni11	Ni13	Ni16	NiTn19	NiTn20
							Ni21	Ni22	NiH25	Ni27	Ni28	Ni29	

### イ 収穫時期からみた品種

早期収穫品種	中・晩期収穫品種
NiF8 NiTn10 Ni11 Ni13 Ni15 NiTn20 Ni22 NiN24 Ni26 Ni27 Ni28 Ni29	F161 F177 Ni9 Ni16 Ni17 NiTn19 Ni21 NiH25

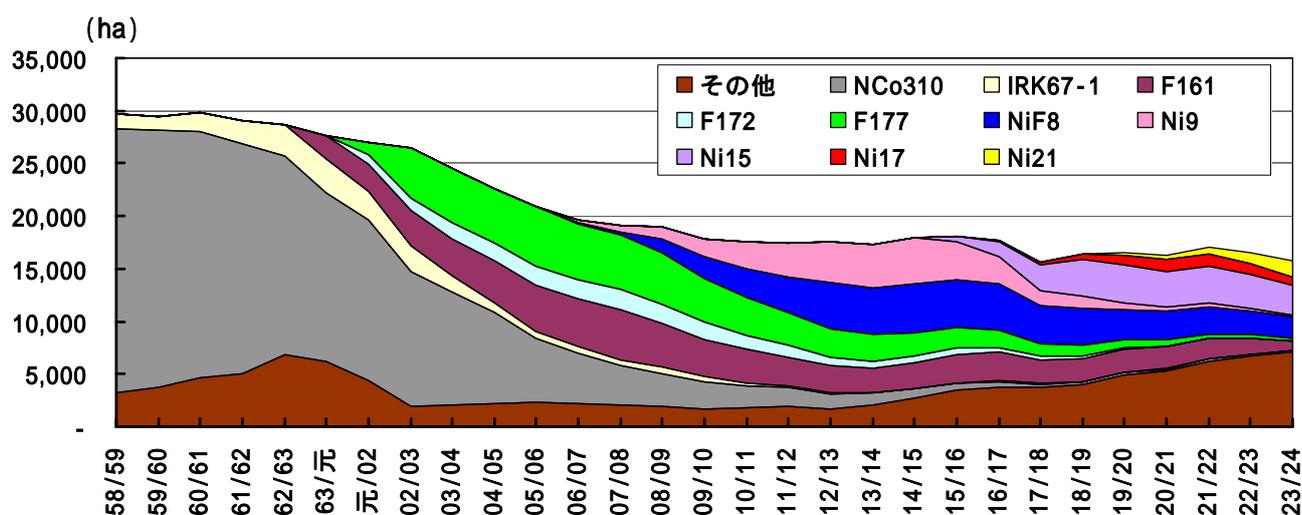
### ウ 栽培型からみた品種

株出し多収品種	夏植多収品種	春植・株出し品種
Ni9 Ni16 Ni17 NiTn19 NiTn20 Ni22 NiH25 Ni28	F161 F177 NiF8 NiTn10 Ni11 Ni13 Ni15 Ni21 NiN24 Ni26 Ni27 Ni29	F161 F177 NiF8 Ni9 NiTn10 Ni11 Ni16 Ni17 NiTn19 NiTn20 Ni21 Ni22 NiH25 Ni26 Ni27 Ni28

## (7) 各地域における普及目標品種

### ア 県全体

沖縄県のさとうきびの品種構成の推移は次のとおりである。

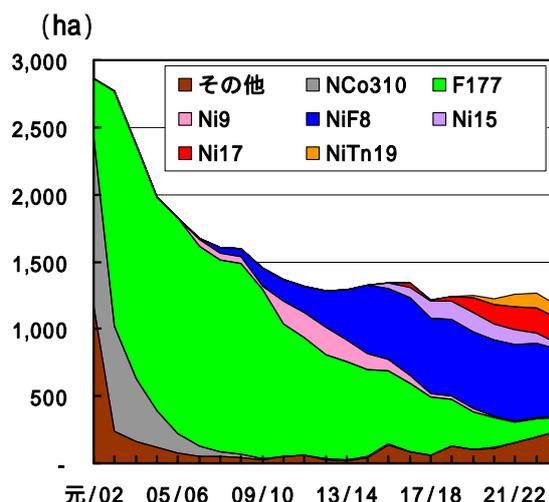


### イ 沖縄本島北部地域

NiF8、F177、Ni17を中心に、株出し栽培の多い地域である。

F177は台風による茎折損が多いため、Ni15、Ni17、Ni21、NiH25等の比較的台風害に強い品種への切り替えが望ましい。

山地畑で低収量地域ではNi16、NiTn19、NiTn20、Ni21、Ni22、NiH25を、水田転換畑で土壤水分が多く、蔗茎の伸びが良いため倒伏が生じやすい低糖度ほ場では立茎性のNi17（黒穂病注意）や高糖度のNi15、Ni26が有効である。



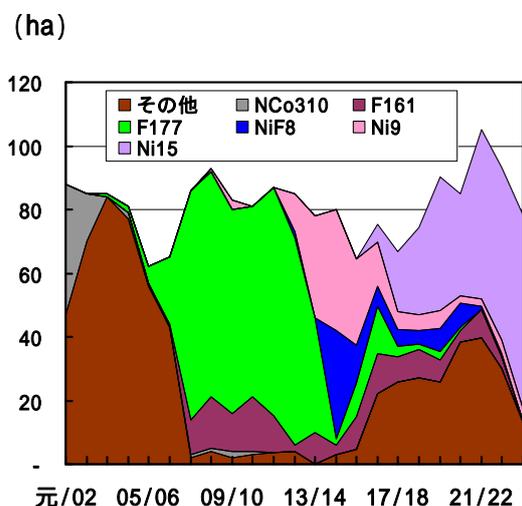
### ウ 伊平屋島地域

含蜜糖生産地域であるため、多収量、高糖度に加え、黒糖製品の品質を考慮した品種選択が必要である。

早期高糖品種のNi15が多く、夏植中心の栽培である。Ni15に偏った品種構成であるので、Ni13、Ni16、NiTn20、Ni21等の品種への切替が望まれる。

低コスト型の株出し栽培への移行も考慮するとNi17（干ばつ被害注意）、NiTn20、Ni22、NiH25も適応可能である。

栽培ほ場の土壤で干ばつが生じやすいほ場では、比較的干ばつ被害に強いNi9（黒穂病注意）、Ni16、NiTn20、Ni21、NiH25を、水田転換畑で土壤水分が多く、蔗茎の伸びが良いため倒伏が生じるほ場では、立茎性のNi17が有効である。



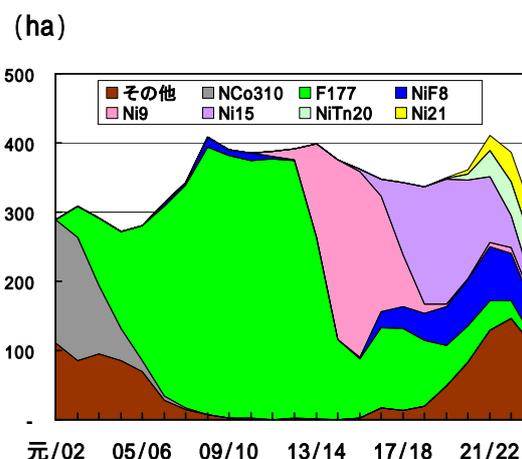
### エ 伊是名島地域

Ni17、NiF8を中心に、株出し栽培の多い地域である。

Ni9は黒穂病の多発生が問題となっているため、Ni15、Ni16、NiTn19、NiTn20、Ni22などの黒穂病に強い品種への一部切り替えが望ましい。

またF177は台風による茎折損が多いため台風被害に強いNi21などの品種への切り替えが望ましい。

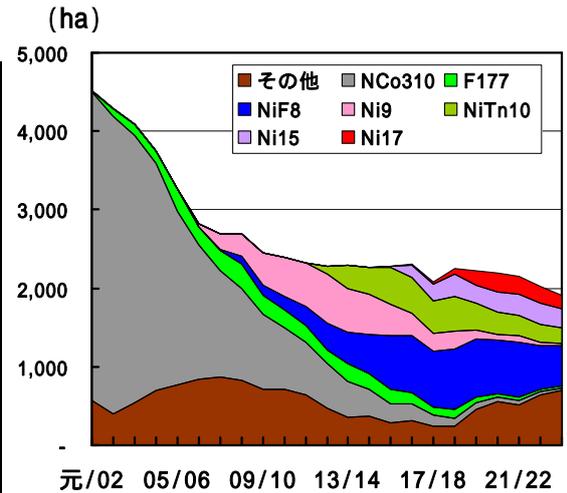
栽培ほ場の土壤で干ばつが生じやすいほ場では、比較的干ばつ被害に強いNi9、Ni16、NiTn20、Ni21、NiH25を、土壤水分が多く、蔗茎の伸びが良いため倒伏が生じるほ場では、立茎性のNi17（黒穂病注意）が有効である。



### オ 沖縄本島中南部地域

株出し栽培を中心に、NiTn10、NiF8、Ni17 が多く栽培されており、他の地域に比べ品種の多様化が進んでいる。

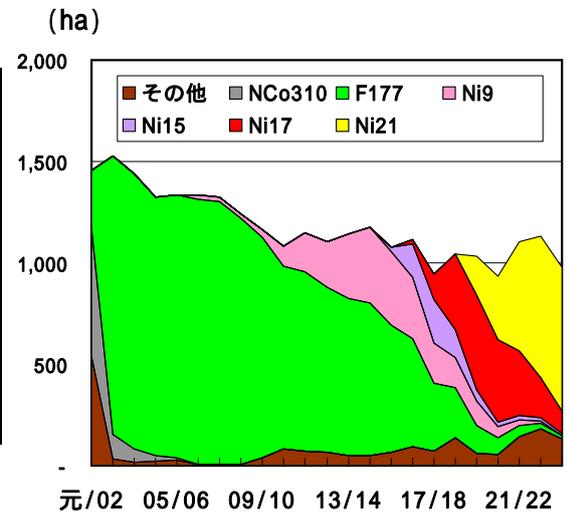
株出し多収の Ni9 は黒穂病の多発生が問題となっているため、Ni15、NiTn19、NiTn20、Ni21、Ni22 等の黒穂病に強い品種への一部切り替えが望ましい。



### カ 久米島地域

株出し栽培を中心に、Ni21、Ni17 が多く栽培されている。

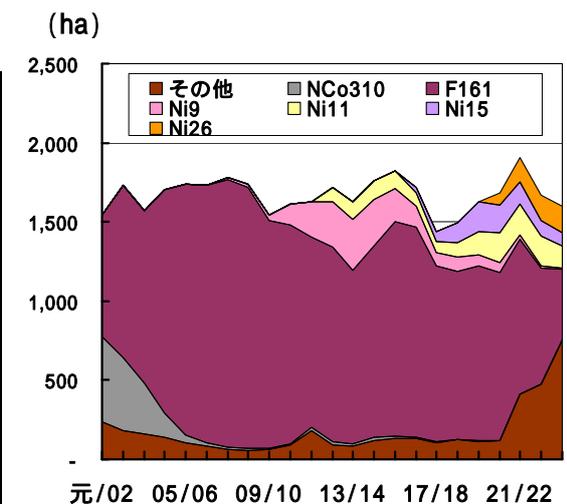
台風被害(茎折損や潮害)の多い地域では、台風被害に比較的強い Ni17、Ni21、NiH25 等の栽培が有効である。干ばつが生じやすいほ場では、比較的干ばつ被害に強い Ni9(黒穂病注意)、NiTn20、Ni21、Ni22、NiH25 を、土壌水分が多く糖度が低い圃場では Ni15、NiTn10 等の早期高糖品種の利用が望ましい。



### キ 南北大東島地域

F161 が多く栽培されている。

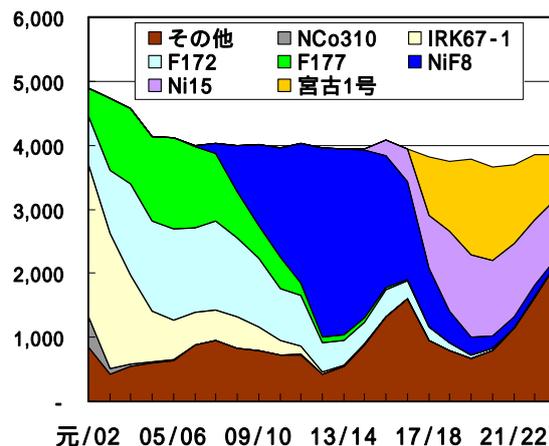
F161 は大東島の機械栽培体系に適応していると考えられる。しかし、安定的生産のためには、多品種栽培によるバランスが必要であるので Ni11、Ni15、Ni16、Ni17、NiTn19、NiTn20、Ni21、Ni26、Ni28、Ni29 等を増やし品種を多様化することが望ましい。さらに安定生産向上に向け、夏植え型 1 年栽培の可能な早期高糖品種 Ni29(11 月収穫)、Ni26(12 月収穫) と株出し多収品種 Ni28、機械栽培体系適応品種 F161 を組み合わせた品種構成での栽培が有効である。



### ク 宮古島地域

品種は、宮古1号、Ni15、NiF8が多く、夏植え中心の栽培である。  
 干ばつ被害の発生しやすい地域では、Ni21、NiH25等の比較的干ばつ被害に強い品種の栽培が望ましい。  
 低コスト型の株出し栽培への移行も考慮するとNi21(発芽不良対策必要)、Ni22、NiH25、Ni27、Ni28も有効である。

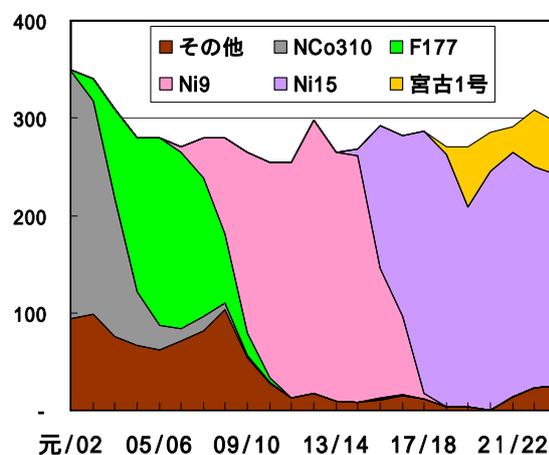
(ha)



### ケ 多良間島地域

含蜜糖生産地域であるため、多収量、高糖度に加え、黒糖製品の品質を考慮した品種選択が必要である。  
 Ni15が多く、夏植え中心の栽培である。  
 品種がNi15に偏っており、安定的生産のためには多品種栽培によるバランスが必要であるので、Ni11、Ni13、Ni16、NiTn19、NiTn20、Ni21等を増やすことが望ましい。  
 低コスト型の株出し栽培への移行も考慮すると、Ni17(黒穂病注意)、Ni22、Ni27も有効である。

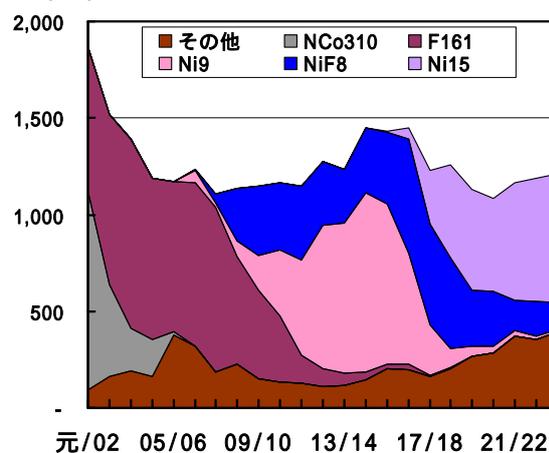
(ha)



### サ 石垣島地域

NiF8、Ni15が多く、夏植え中心の栽培である。  
 低コスト型の株出し栽培への移行も考慮すると、Ni17(黒穂病注意)、NiTn19、NiTn20、Ni22、NiH25、Ni27も有効である。水田転換畑で土壤水分が多く、蔗茎の伸びが良いため倒伏が生じやすい低糖度ほ場では立茎性のNiTn10、Ni11、Ni13、Ni17(黒穂病注意)が有効である。

(ha)



## シ 小浜島・西表島・波照間島・与那国島地域

含蜜糖生産地域であるため、多収量、高糖度に加え、黒糖製品の品質を考慮した品種選択が必要である。

夏植え中心の栽培である。各島ともに Ni15 に偏った栽培であり、品種のバランスからみて Ni15 以外の数品種の栽培が望まれる。低コスト型の株出し栽培への移行も考慮すると、Ni17(黒穂病注意)NiTn19、NiTn20、Ni22、NiH25、Ni27 も有効である。

